

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:8-10.

繰り返す静脈うっ滞性潰瘍の管理に難渋した一症例

日野岡 蘭子

繰り返す静脈うっ滞性潰瘍の管理に難渋した一症例

旭川医科大学病院
看護部 日野岡蘭子

＜症例＞80代女性。下肢静脈瘤、静脈うっ滞性潰瘍。2014年下腿に潰瘍を発症し、急速に悪化を認め治療目的で入院。大伏在静脈ストリッピングおよび不全交通枝結紮を行い、軽快退院した。その後2017年まで5回下腿潰瘍の悪化および感染で入院を繰り返した。各退院時にはスキンケア指導を含めた下肢の洗浄、保湿を指導し、意欲、認知の状態から本人が管理可能と判断したが、下腿全体の皮膚は汚染、落屑が著明、皮膚のバリア機能の低下を認めていた。弾性包帯装着による摩擦と乾燥に伴う掻痒からの掻破が要因と考え、今回入院では自宅での管理方法を再検討した。本人ができるとしていた下肢の洗浄は、看護師が確認したところ不十分

で、改めて家族から自宅での詳細な状況の情報を収集した。スキンケアの管理を家族主体に切り替えたことで、退院後良好な皮膚状態を維持している。本人は洗浄の重要性を認識していたが、洗浄と保湿の理由は理解していなかったため不十分な管理であった。その部分を家族に担ってもらうことで良好な管理が可能になった。

＜結語＞1) スキンケア管理は本人が可能としても、看護師が客観的に判断する必要がある。2) 本人管理で何が不足しているのか、局所管理の視点のみではなく総合的に考慮することが必要である。

繰り返す静脈うっ滞性潰瘍の管理に 難渋した一症例

旭川医科大学病院 看護部
日野岡蘭子

筆頭演者：日野岡蘭子

この発表に際して開示すべきCOIはありません

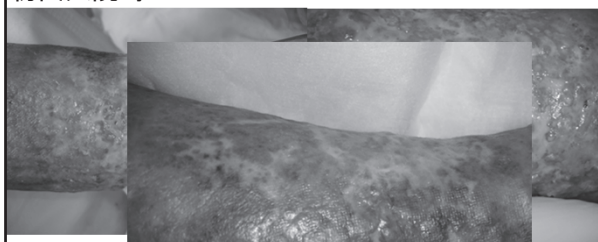
症例

- ・80代女性
- ・右下肢静脈瘤、右下腿静脈うっ滞性潰瘍
- ・20××年初回入院
- ・大伏在静脈ストリッピング術、不全交通枝結紮、小伏在静脈高位結紮
- ・その後潰瘍再燃のため5回の入退院を繰り返す

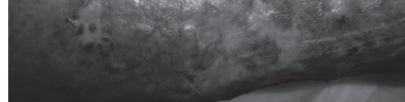
2017年潰瘍再燃のため入院

潰瘍の状態

初回入院時



退院時



5回目入院時の経過

入院時



問題点

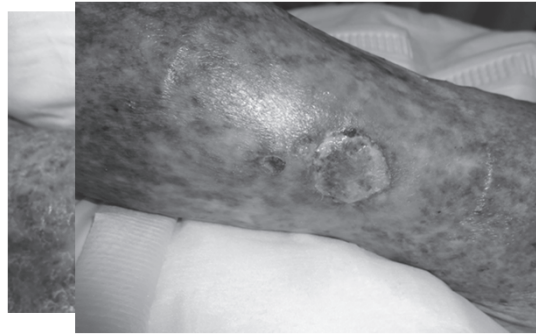
- ☑ 搔破行動が止まらない
→適度の保湿により搔痒は軽減する可能性がある
- ☑ 自宅での洗浄は家族の介助ではなく本人任せであったが、洗浄は不十分であった
→本人は自己管理可能と表出しているが、客観的判断としては困難
- ☑ 同居している家族は、訪問看護などの社会資源の導入を拒否し続けていた
→家族に対して事実の認識と意向の確認

介入

搔破行動から皮膚破綻の悪循環を断ち切る
搔破を止めるにはスキンケアが重要

- ☑ 自己管理可能と認識している状況は肯定する
- ☑ 家族の意向を再確認、実際の洗浄、保湿等のケアに同席してもらい、患者自身の不足領域を視覚で認識してもらった
- ☑ 本人のセルフケアでは管理困難であることを理解し、家族が必ず介助し皮膚状態を観察することで相互確認した

周囲皮膚の変化



考察

認知機能の低下がない患者であり、下腿のセルフケアはできるとする自己効力感が高かった

本人が管理できると表出していたため、家族は本人に任せていた

客観的には管理不十分で、洗浄、保湿不足からの搔痒に対し、指摘されるまで気づかないほどの常時搔破行動があった

考察

できるだけ患者・家族の意向を尊重する



可能なのか

・自己管理でのスキンケア

・家族に全面的に依頼すること

客観的に判断することが必要

本人は洗浄の必要性を理解していたが、理由まで理解していなかったため、不十分な管理であった
その部分を家族に依頼することで良好な管理が可能となった

結語

- ☑ スキンケア管理は本人が可能としても、看護師が客観的に判断する必要がある。
- ☑ 本人管理で何が不足しているのか、局所管理の視点のみではなく総合的に考慮することが必要である。
- ☑ 本人の役割、家族の役割を明確にしたことで管理が可能となった